

# 北大の先生が選んだ本／選書リスト

※無料・ご自由にお持ちください (Take free)  
三省堂書店札幌店／2025年12月発行

## 物語の中の北大

### ■選者紹介

#### 川本思心 (かわもとししん)

北海道大学大学院理学研究院准教授

【専攻】科学技術コミュニケーション、科学技術社会論

#### 福浦友香 (ふくうら ゆか)

北海道大学大学院理学研究院研究生

【専攻】観光メディア論、オタク文化研究、メディアデザイン

北海道大学は2026年に創基150周年を迎える。この記念事業のひとつが、北海道大学大学院農学院出身の作家岩井圭也氏による『北極星をえがく』の制作である。泉ひばりと友人たちの大学生活を描く本作は、3ヶ月ごとに第5話まで制作される予定で、全国の配布場所にて数量限定で無料配布されるほか、北海道大学創基150周年の特設サイト内で小説の一部の試し読みが可能となっている（特設サイトへは下記QRコードから）。2025年11月25日現在、第2話まで発表・無料配布されており、三省堂書店札幌店でも「北海道の本」のコーナー近くで、数量限定で無料配布中。他の岩井作品も並べられているので、ぜひ手に取っていただきたい。（川本）



### ■選者の著作

北海道大学CoSTEP・北海道大学総務企画部広報課・北海道大学生活協同組合編『北大キャンパスガイド』北海道大学出版会、2021年



広く美しく、歴史ある北海道大学のキャンパス各所を豊富なカラー写真とテキストで紹介するガイドブック。札幌キャンパスだけではなく、植物園、時計台、おしゃろ丸・うしお丸といった船舶を含む函館キャンパスも網羅している。マップや花・鳥・虫一覧も収録しているため、散歩・自然観察のお供にも最適。いずれ時がたてば、2010-20年代の北大の風景を記録した資料となるだろう。（川本）

定価：1,980円（本体価格1,800円+税）  
ISBN：978-4-8329-1410-0

### ■選書リスト

#### 01 門井慶喜著『札幌誕生』河出書房新社、2025年

札幌の礎を築いた人々の群像劇。5篇の主人公のうち、内村鑑三（第2話）、有島武郎（第4話）、岡崎文吉（第5話）が札幌農学校出身であり、その役割の大きさが伺える。本作では、北海道という自然の性質、それにつながる信仰や精神が底流をなしており、5名の主人公全員が苛烈、直情というより実直、地道な性格として描かれているのが興味深い。本作とリンクする作品として有島武郎の『星座』と船山馨の『石狩平野』を推したい。（川本）

定価：2,475円（本体価格2,250円+税）  
ISBN：978-4-309-03948-0

#### 02 手塚治虫著『シユマリ（上・下）』KADOKAWA（角川文庫）、2019年

明治初期の北海道開拓を舞台に、妻を追つて江戸から渡ったシユマリが、厳しい自然や資源をめぐる争いの中で生き抜こうとする姿を描いた人間ドラマである。作中では育ての子ポン・ジョンが札幌農学校へ進学し、宿舎やボーラ並木が登場するほか、札幌農学校演武場（現・札幌市時計台）など歴史的建築物が描かれ、当時の農学校と札幌の姿が伝わってくる。（福浦）

定価：各巻1,034円（本体940円+税）  
〈上〉ISBN：978-4-04-108879-1  
〈下〉ISBN：978-4-04-108880-7

#### 03 安彦良和著『王道の狗』中央公論新社（中公文庫CHUKO COMICS）、2014年（全4巻）【品切】

明治20年代、自由民権運動の資金を得るために押し込み強盗をはたらき、逮捕された加納周助。彼は上川の過酷な道路建設に動員されるが脱獄し、アイヌの人々との交流を経てクワンと名を改め、激動の東アジア情勢に身を投じていく。札幌農学校演武場（現・札幌市時計台）や農学校時代の建物が登場し、作者の故郷である遠軽町の風景も描かれる。北海道への愛情と歴史への洞察を感じられる作品である。（福浦）

定価：1-2巻968円（本体価格880円+税）  
3-4巻792円（本体価格720円+税）  
〈1〉ISBN：978-4-12-206016-6  
〈2〉ISBN：978-4-12-206018-0  
〈3〉ISBN：978-4-12-206042-5  
〈4〉ISBN：978-4-12-206059-3

#### 04 野田サトル著『ゴールデンカムイ』集英社、2015-2022年（全31巻）【品切】

明治40年代の北海道を舞台に、元兵士の杉元佐一とアイヌの少女アシリバが、アイヌから奪われた金塊をめぐる争奪戦に巻き込まれていく物語。大日本帝国陸軍第七師団、新選組らが行く手を阻み、互いの信念がせめぎ合う展開が魅力的だ。作中に登場する江渡貝弥作の剥製製作所は、北海道大学

植物園内の博物館本館がモデルである。実際の植物園内の博物館本館には、ヒグマやエゾオオカミなどの剥製があり作品の世界観を感じることができる。なお、北大植物園は冬期は休館している（2025年度は11月4日～2026年4月28日まで）。（福浦）

定価：01-29巻594円（本体価格540円+税）

30-31巻693円（本体価格630円+税）

〈1〉ISBN：978-4-08-890082-7

〈2〉ISBN：978-4-08-890105-3

〈3〉ISBN：978-4-08-890192-3

〈4〉ISBN：978-4-08-890240-1

〈5〉ISBN：978-4-08-890325-5

〈6〉ISBN：978-4-08-890372-9

〈7〉ISBN：978-4-08-890451-1

〈8〉ISBN：978-4-08-890493-1

〈9〉ISBN：978-4-08-890554-9

〈10〉ISBN：978-4-08-890589-1

〈11〉ISBN：978-4-08-890639-3

〈12〉ISBN：978-4-08-890779-6

〈13〉ISBN：978-4-08-890888-5

〈14〉ISBN：978-4-08-891048-2

〈15〉ISBN：978-4-08-891098-7

〈16〉ISBN：978-4-08-891176-2

〈17〉ISBN：978-4-08-891229-5

〈18〉ISBN：978-4-08-891334-6

〈19〉ISBN：978-4-08-891368-1

〈20〉ISBN：978-4-08-891437-4

〈21〉ISBN：978-4-08-891501-2

〈22〉ISBN：978-4-08-891582-1

〈23〉ISBN：978-4-08-891704-7

〈24〉ISBN：978-4-08-891737-5

〈25〉ISBN：978-4-08-891813-6

〈26〉ISBN：978-4-08-892011-5

〈27〉ISBN：978-4-08-892074-0

〈28〉ISBN：978-4-08-892162-4

〈29〉ISBN：978-4-08-892243-0

〈30〉ISBN：978-4-08-892294-2

〈31〉ISBN：978-4-08-892370-3

#### 05 久生十蘭著『魔都』東京創元社（創元推理文庫）、2017年

1934年正月未明の帝都、ベトナム皇帝が秘宝と共に行方不明となる。胡乱な輩が入り乱れるこの物語の狂言回しの一人が、北海道農科大学土木科卒の三流記者、古市加十である。彼の性格は土木と結びつけられて語られる。「土木学を専攻しようと企てるような地味な人物だから、才気澁刺という工合にはゆかないが、一面に愚直を絵に描いたような」「北大の土木科なんていう、とぼけた学業」など散々であるが彼の行動力が物語を動かしていく。（川本）

定価：1,430円（本体価格：1,300円+税）  
ISBN：978-4-488-47111-8

#### 06 加藤幸子著『苺畑よ永遠に』新潮社、1993年【品切】

芥川賞作家で北大農学部出身の加藤幸子による自伝的小説。時は1950年代半ば、藤本佐智は東京を発ち、生地でもある北国最大の町の大学に入学する。屋根裏の下宿、山岳部の活動、植物園でのバイト、学生運動、そして園場に苺畑を作つての卒業研究。実験や恋人との関係、進路に悩む佐智の姿は

現代にも通じるが、女子学生は全学生の3%しかおらず、奇異の目線や、同性との友人関係、女子トイレが無いといった状況に足を取られる日常にも注目。 (川本)

定価：1,708円（本体価格1,553円+税）  
ISBN：978-4-10-345205-8

## 07 三浦綾子著『続氷点（上・下）』 KADOKAWA（角川文庫）、2012年

罪と赦しを主題に北海道を舞台とする長編『氷点』。その続編『続氷点』では、成長した辻口陽子が北大生として登場し、クラーク会館や中央ローンといった現在と変わらぬ風景が頻繁に描かれている。陽子の養父で医者の啓三は北大出身で、義兄徹も北大の医学部生。その他にも北大に関係する人物は多い。なおオマージュ作品とも位置づけられる物語として、北大農学部出身の谷村志穂による『海猫』がある。併読をお勧めしたい。 (川本)

定価：各巻704円（本体価格640円+税）  
〈上〉ISBN：978-4-04-100386-2  
〈下〉ISBN：978-4-04-100385-5

## 08 渡辺淳一著『流氷への旅』集英社（集英社文庫）、2009年

見合い話に釈然としない竹内美砂は、父の友人で北大低温科学研究所海洋学教室の明峯教授を頼り、紋別にある流氷研究所へ行く。そこで目にした流氷と、主任研究員紙谷誠吾に美砂は惹かれてゆく。物語の所々で流氷や海流の詳細が登場人物から語られ、研究室の日常、予算獲得、調査の実際も描かれているのは渡辺淳一ならではのディテールと言えよう。渡辺作品では北大農学部助教授で植物園につとめる男が主人公の『リラ冷えの街』も必読。 (川本)

【文庫版】2009年／品切  
定価：847円（本体価格770円+税）  
ISBN：978-4-08-746398-9  
【デジタル版】2016年  
定価：770円

（2025年12月3日現在@ BookLive!ストア）

## 09 氷室冴子著『雑居時代（上・下）』 集英社、1982年

北大進学を目指す高校生の倉橋数子は、母の従兄弟である花取教授邸の留守を任せたことから、浪人生の安藤勉と同級生の三井家弓と奇妙な同居生活を送ることになる。素顔を隠す数子、受験に苦悩する安藤、漫画家を目指す家弓が織りなすドタバタな日常が魅力である。作者は北海道出身で藤女子大学卒であることから札幌の描写にも重みがあり、北大理学部の生物学教授でヒドラを研究しているという花取教授の設定も妙に詳細である。 (福浦)

【文庫版】1982年／品切  
定価：各巻374円（本体価格340円+税）  
〈上〉ISBN：978-4-08-610505-7  
〈下〉ISBN：978-4-08-610506-4  
【単行本】1997年／品切

定価：各巻1,495円（本体価格1,359円+税）  
〈1〉ISBN：978-4-08-609050-6  
〈2〉ISBN：978-4-08-609051-3  
【デジタル版】2014年  
〈I〉定価：495円（税込）

〈II〉定価：495円（税込）  
(各巻2025年12月3日現在@ BookLive!ストア)

## 10 東直己著『探偵はバーにいる』 早川書房（ハヤカワ文庫）、1995年

スキンを拠点に探偵をする「俺」を描くシリーズ第1作。主人公は北大文学部哲学科中退、相棒の高田は農学部の万年博士課程で恵迪寮に住むという設定。これには作者自身の北大文学部中退といった経験が反映されており、1984年晚秋という時代背景や、百年記念館きやら亭の描写が作品の空気をより確かなものにしている。現在きやら亭は無いが、同所にある北大マルシェにて「俺」も見た景色を眺めながら、飲食をたのしむことができる。 (川本)

定価：836円（本体価格760円+税）  
ISBN：978-4-15-030521-5

## 11 増田俊也著『七帝柔道記』 KADOKAWA（角川文庫）、2017年

寝技を中心とする七帝柔道。旧帝国大学が競う七帝戦で負け続ける北大柔道部に入り、ひたすら苦しい練習に明け暮れる学生たちを描く自伝的小説。1980年代後半を舞台に、札幌キャンパスの風景、北大界隈の飲食店などもディティール豊かに描かれる。柔道部員でなくともその熱気を追体験することができる。2024年に発表された続編（『七帝柔道記II』）も必読。果たして北大柔道部は優勝できるのか？ なお現実では苦難の時期を抜け、2022年から4大会連続優勝中だ。 (川本)

定価：1,012円（本体価格920円+税）  
ISBN：978-4-04-104231-1

## 12 佐々木倫子著『新装版 動物のお医者さん』小学館、2024年（全12巻）

獣医を志す高校生の西根公輝はH大学獣医学部に進学し、マイペースな菱沼先輩や破天荒で度々アフリカンアートを身にまとう漆原教授ら癖の強い仲間に囲まれた研究室生活を送る。愛犬シベリアン・ハスキーのチョビや、多様な動物と関わりながら成長していく姿がユーモラスに描かれる。モデルは北大獣医学部で、雪深い札幌での生活や研究室の雰囲気がリアルに再現されている。本作で獣医学部への志望者が増加したとも言われている。 (福浦)

定価：各巻770円（本体価格700円+税）  
〈1〉ISBN：978-4-09-862731-8  
〈2〉ISBN：978-4-09-862732-5  
〈3〉ISBN：978-4-09-862733-2  
〈4〉ISBN：978-4-09-862734-9  
〈5〉ISBN：978-4-09-862735-6  
〈6〉ISBN：978-4-09-862736-3  
〈7〉ISBN：978-4-09-862737-0  
〈8〉ISBN：978-4-09-862738-7  
〈9〉ISBN：978-4-09-862739-4  
〈10〉ISBN：978-4-09-862740-0  
〈11〉ISBN：978-4-09-862741-7  
〈12〉ISBN：978-4-09-862742-4

## 13 小路幸也著『札幌アンダーソング』 KADOKAWA（角川文庫）、2016年

北海大学（きたみちだいがく）の学生・志村春は、クラーク博士ゆかりの祖先四代分の

記憶と人格、卓越した頭脳を受け継ぐ青年で、道警刑事の仲野久と共に大学構内に潜む秘密クラブが関わる殺人事件の真相に迫る。札幌農学校から続く北大の歴史や広大な札幌キャンパスを舞台とすることで物語に厚みが生まれている。クラーク博士の逸話を基にした作中作も魅力を深めている。(福浦)

定価：770円（本体価格700円+税）  
ISBN：978-4-04-103490-3

## 14 乾ルカ著『わたしの忘れ物』東京創元社（創元推理文庫）、2021年

北大生の中辻恵麻は、謎めいた大学事務職員ユウキに勧められ、忘れ物センターでアルバイトを始める。さまざまな「忘れ物」の解決に立ち会う中で、自身の内面にも変化が生じていく。二人が出会う学生部庁舎（現・事務局3号棟）の描写は実際と重なり、アルバイトと事務職員という大学生活に根差した設定も他には無い。作者は本作の他にもユウキが登場する『メグル』や、大正時代の北大が登場する『ミツハの一族』も手がけている。 (川本)

【文庫版】2021年／品切  
定価：858円（本体価格780円+税）  
ISBN：978-4-488-43113-6

【デジタル版】2021年  
定価：850円（税込）

（2025年12月3日現在@ BookLive!ストア）

## 15 早瀬耕著『プラネタリウムの外側』 早川書房（ハヤカワ文庫）、2018年

優秀だが論文を書かない北大工学部の万年助教、南雲薰は、某研究所から払い下げられた有機素子コンピューターを使い、AI「ナチュラル」を構築する。教授の藤野奈緒や学生の佐伯衣理奈、そしてAIが交錯しながらさまざまな実験が行われ、過去と現在・未来、本当の記憶とつくられた記憶、現実とシミュレーションの境界が曖昧になっていく。端整な文体が生む、非現実世界と札幌キャンパスや植物園のリアリティが対照的に響きあう。 (川本)

【文庫版】2018年／品切  
定価：946円（本体価格860円+税）  
ISBN：978-4-15-031323-4

【デジタル版】2018年  
定価：946円（税込）

（2025年12月3日現在@ BookLive!ストア）

## 16 椰月美智子著『緑のなかで』光文社、2018年

一面ツタで覆われるH大学の緑旺寮＝恵迪寮を舞台とする青春小説。季節とともに変わるツタや、寮へ向かう途中にある原生林の景色が、登場人物たちの心情のうつろいと共に描かれる。主人公の青木啓太は「工学部環境社会工学科国土環境施設学コース」の3年生で橋梁建設を志す。このコースのモデルは橋の研究も行っている社会基盤学コースと考えられ、その系譜は『札幌誕生』に登場する広井勇や岡崎文吉へと遡ることができる。 (川本)

【単行本】2018年／品切  
定価：1,650円（本体価格1,500円+税）  
ISBN：978-4-334-91240-6

【文庫版】2021年／品切  
定価：836円（本体価格 760円+税）  
ISBN：978-4-334-79204-6  
【デジタル版】2021年  
定価：825円（税込）  
(2025年12月3日現在@ BookLive!ストア)

**17 阿川せんり著『アリハラせんぱいと  
救えないやっかいさん』**  
KADOKAWA、2017年

文学部2年の子島多喜は「眞の変人」を求めて北大に入学するが、先輩のマイやミレイは変人を演じるだけの「やっかいさん」だと気づく。距離を置こうとする彼女の前に現れたのが、変人研究を卒研テーマにするアリハラせんぱい。軽妙な文体のコメディは物語後半で一気に転調し、加速する。重要な場所として北大キャンパスの大野池が登場し、札幌駅のスタバなど札幌都心部の描写も細やか。作者が北大出身であるからこそその魅力だ。  
(川本)

【単行本】2017年／品切  
定価：1,540円（本体 1,400円+税）  
ISBN：978-4-04-104759-0  
【デジタル版】2018年  
定価：1,100円（税込）  
(2025年12月3日現在@ BookLive!ストア)

**18 著：宮島京平／原案：毛利亘宏／原  
作：ブシロード／キャラクターデザ  
イン：三好輝『ARGONAVIS from  
BanG Dream! COMICS』集英社、  
2021年（全2巻）**

アニメやゲーム、音楽プロジェクトとしても展開されている『フロムアルゴナビス』の漫画作品。「函館の大学」を舞台に、音楽好きの大学生たちがバンドマンを夢見て成長していく物語である。作中では函館の町並みと共に、「大学」として北大札幌キャンパスの教養棟、人文棟、セイコーマートが登場しており、札幌と函館が合成された形で描かれている。なお、フィクション作品で北大函館キャンパスが扱われる例は稀である。  
(福浦)

【文庫版】2021年／品切  
(1) 定価：660円（本体価格 600円+税）  
ISBN：978-4-08-882566-3  
(2) 定価：693円（本体価格 630円+税）  
ISBN：978-4-08-882679-0  
【デジタル版】2021年  
(1) 定価：627円（税込）  
(2) 定価：658円（税込）  
(各巻 2025年12月3日現在@ BookLive!ストア)

**19 池井戸 潤著『下町ロケット ヤタ  
ガラス』小学館（小学館文庫）、  
2021年**

ロボットトラクター開発に挑む技術者たちを描き、2018年にドラマ化もされた本作には「北海道農業大学」が登場。佃航平と財前道生がタクシーで迎る正門から農学部へ向かう風景は、札幌キャンパスと明確に一致する。二人が訪ねた野木博文教授のモデルは北大農学研究院の野口伸教授で、巻末の謝辞にその名が記載されている。ドラマ版では野木教授は北海道出身の森崎博之氏が演じたが、さすがに野口教授とビジュアルは似ていない。  
(川本)

定価：935円（本体価格 850円+税）  
ISBN：978-4-09-407064-4

**20 阿部暁子著『金環日蝕』東京創元社  
(創元推理文庫)、2025年**

札幌の国立大学、H大学文学部2年森川春風は、ひったくりを目撃。同じく目撃者である高校生の北原鍊と犯人を捜していくが、それは身近に潜む闇へ近づく一歩だった。H大の正門からクラーク像、北大マルシェ、図書館、サークル会館といった場所、そして各種サークルに所属するH大生が描かれる。黒百合会ならぬ黒薔薇会が登場するのが面白い（黒百合会は北大美術部の名称）。地元住民になんとなく信頼される大学の学生という立場性が、物語の装置の一つとなっている。  
(川本)

定価：990円（本体価格 900円+税）  
ISBN：978-4-488-44421-1

## ■選書ポイント

※「物語の時代設定」は選者調べ

| no. | 著者名<br>『作品名』                                     | 物語の<br>時代設定   | 選書理由など   |
|-----|--|---------------|--|
| 1   | 門井慶喜 著<br>『札幌誕生』                                 | 1845～1962     | 選評で言及した3名（内村鑑三、有島武郎、岡崎文吉）の他に、本作には次の北大関係者が登場する。新渡戸稻造、宮部金吾、広井勇、高木玉太郎、町村金弥、南鷹次郎、W・ホイーラー、W・ブルックス、D・ペンハロー、佐藤昌介、黒岩四方之進、大島正健、森本厚吉。                          |
| 2   | 手塚治虫 著<br>『シユマリ』                                 | 1860年代後半～1895 | 主人公シユマリの育ての子であるポン・ションの進学先として、札幌農学校と寄宿舎が登場する。初代恵迪寮は1905年開舎のため（命名は1907年）、それより前の時代設定の本作中に登場するのは「白官舎」と呼ばれた寄宿舎だと推測される。                                    |
| 3   | 安彦良和 著<br>『王道の狗』                                 | 1880年代後半      | 作者は2024年に北大で「安彦良和、歴史漫画を語る。」と題した講演を行っており、『王道の狗』と北大との関係についても言及している。講演会を主催した北大 CoSTEPのホームページにある関連動画や安彦良和氏による寄稿（北大 HUSCAPに収録）もぜひ参照してほしい。                 |
| 4   | 野田サトル 著<br>『ゴールデンカムイ』                            | 1900年代前半      | 2019年大英博物館のマンガ展でもメインビジュアルになるなど、国内外に多くのファンがいる近年のヒット作品。北海道開拓の歴史、アイヌ文化への入口をさらに広げた作品である。   |
| 5   | 久生十蘭 著<br>『魔都』                                   | 1934          | 中心的登場人物の北海道農科大学土木科卒という設定が効いている。本作のように、登場人物の人格の特徴づけとして出身大学が使われるという事例もまた重要。1934年という他にはない時代設定もよい。   |
| 6   | 加藤幸子 著<br>『苺畠よ永遠に』                               | 1950年代半ば      | 加藤幸子は『夢の壁』で第88回芥川賞（1982年下半期）を受賞しており、北大出身作家としてリストから外すことはできない。加藤の他にも谷村志穂、永井するみ、岩井圭也と、北大農学部・農学院出身の作家は意外と多い。なお、加藤の父の加藤静夫は北大出身の農業昆虫学者。                    |
| 7   | 三浦綾子 著<br>『続氷点』                                  | 1970年代        | 本選書は北海道文学の一部分の紹介とも位置づけられ、その意味で『塩狩峠』『泥流地帯』などを残した三浦は必須。余談：キャンパスを南北に貫く道を現在は「メインストリート」と呼ぶが、本作では「中央道路」と書かれていることに注目。                                       |
| 8   | 渡辺淳一 著<br>『流氷への旅』                                | 1970年代末       | 札幌キャンパス以外の北大（紋別の流氷研究施設。現・環オホーツク観測研究センター）を扱う珍しい作品。研究内容に詳しいのもポイント大。  |
| 9   | 氷室冴子 著<br>『雑居時代』                                 | 1980年代        | コバルト文庫を代表する作家で『なんて素敵にジャパネスク』で知られる氷室冴子は、今も根強いファンが多い。本作では、ヒメヒドラやタマヒドラ、エヒドラといった複数の種が登場し、青春小説でりながら研究への言及が見られる。   |
| 10  | 東直己 著<br>『探偵はバーにいる』                              | 1980年代前半      | 作者は北大OB（中退）。探偵の相棒は北大農経の万年博士課程の院生（のちに助手）。古きよき「堕落学生」の世界。映画化もされている。   |
| 11  | 増田俊也 著<br>『七帝柔道記』                                | 1986～1987     | 作者が北大出身。これぞザ・北大学生小説。   |
| 12  | 佐々木倫子 著<br>『新装版 動物のお医者さん』                        | 1980年代後半      | 北大獣医学部を一躍有名にした漫画として、欠くことのできない作品である。獣医学部という視点から大学生活を知るきっかけになればと思い、今回リストアップした。   |
| 13  | 小路幸也 著<br>『札幌アンダーソング』                            | 2000年代後半      | 本作は『札幌アンダーソング』『札幌アンダーソング 間奏曲』『札幌アンダーソング ラスト・ソング』の三部作からなるミステリの第1作目。北大札幌キャンパスを中心に、札幌市内の様子が丹念に描かれている。作者は旭川市出身。  |
| 14  | 乾ルカ 著<br>『わたしの忘れ物』                               | 2010年代        | 作者は元北大職員。大学事務の様子が描かれているのは珍しい。ちょっとふしぎ系の話なのも魅力的。   |
| 15  | 早瀬耕 著<br>『プラネタリウムの外側』                            | 2017          | 「SF」という他にないジャンルの作品であり、リストに入れておきたい。研究者の描写もしっかりしている。実際に開催された北大総合博物館の企画展が作中で描かれており、そこから2017年の設定だと推測できる。   |
| 16  | 椰月美智子 著<br>『緑のなかで』                               | 2010年代後半      | 作中に恵迪寮が出てくる点でリストから外すことはできない。工学部で橋をつくりたい学生が登場する。  |
| 17  | 阿川せんり 著<br>『アリハラせんぱいと 救えないやつかいさん』                | 2010年代後半      | 作者は北大文学部出身。北大が舞台の作品には本作のほかに『ウチらは悪くないです。』（新潮社、2019）がある。こちら（『ウチらは～』）の作品は「四日間にも亘る学祭」との記述から、2017年以前の物語だと推測され、本作の時代設定とも重なる（北大祭の開催期間は2018年以降4日間から3日間となった）。 |
| 18  | 宮島京平 著 ほか<br>『ARGONAVIS from BanG Dream! COMICS』 | 2010年代後半      | 北大は札幌だけでなく、函館にもキャンパスがある（水産学部）。フィクション作品の中で函館キャンパスを連想させる舞台が登場することは珍しく、リストアップする意義は大きい。  |
| 19  | 池井戸潤 著<br>『下町ロケット ヤタガラス』                         | 2010年代末       | 野木教授は農学部の野口先生がモデル。ロボットトラクター研究が取り扱われており、研究描写があるのもポイント大。   |
| 20  | 阿部曉子 著<br>『金環日蝕』                                 | 2021          | 現代的犯罪を描くミステリ。道立K高校（札幌北高校と推測される）から北大への進学を目指す学生生活が描かれているのも本作の特徴。10月28日（木）から11月16日（火）までの物語で、この日付と曜日から2021年の設定だと推定できる。文庫版の表紙の銀杏並木はまさにこの時期の様子。            |